

2012 年度 学校自己評価報告書

常翔学園中学校・高等学校

学校自己評価委員会

I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を楽しむよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保障を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

II. 実施方法

実施日：2013年1月末日

1月23日（水）調査用紙配付〔資料1〕

1月23日（水）～31日（木）の期間に回収

調査対象：本校教職員全員（非常勤講師、助手、臨時職員は除く）

評価項目：1. 学校運営 2. 教育内容 3. 生徒指導・支援 4. 教育研修・資質向上の4分類について、それぞれに評価の観点項目を設けて評価を行った。（資料1参照）

なお、評価結果を検討するにあたり参考データとして「職域」「本学園の勤務年数」の調査（基礎調査）も行った。

評価方法：1.よくあてはまる 2.ややあてはまる …… プラス評価
3.あまりあてはまらない 4.まったくあてはまらない …… マイナス評価
の4段階で行なった。

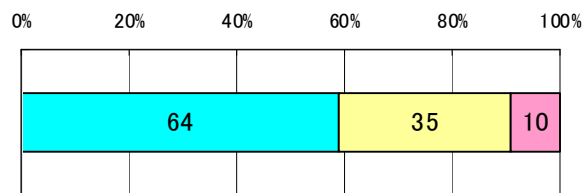
集計結果については、人数と割合で示している。さらに 1.よくあてはまる（10点）2.ややあてはまる（5点）3.あまりあてはまらない（-5点）4.まったくあてはまらない（-10点）とし、それぞれの人数を掛けたものの総和を「加重」欄にグラフ化して示した。

III. 2012年度の「教育の目標」と「重点目標」

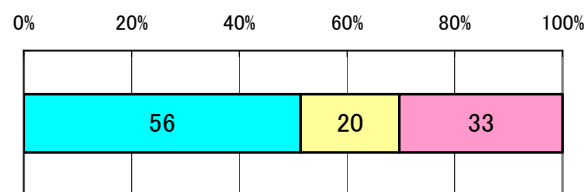
教育の目標	本校の教育理念を浸透させ、「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養う。
今年度の重点目標	・「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底 ・目的を持った進路選択と進学実績の向上

IV. 基礎調査（職域、本学園の勤務年数）

職域	人数	割合 (%)
1. 専任教諭	64	58.7%
2. 特任教諭	35	32.1%
3. 事務職員	10	9.2%
合計	109	100.0%



本学園の勤務年数	人数	割合 (%)
1. 10年未満	56	51.4%
2. 20年未満	20	18.3%
3. 20年以上	33	30.3%
合計	109	100.0%



(注) 休職中の3名を除く

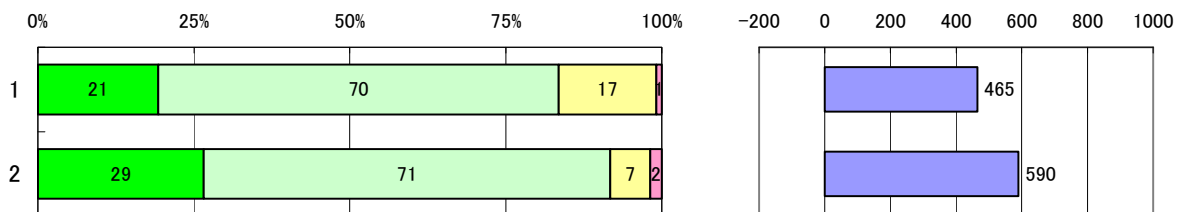
V. 自己評価報告

1. 学校運営

私学の独自性

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
建学の精神について	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	21	70	17	1	19	64	16	1	465
愛校心について	2	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	29	71	7	2	27	65	6	2	590



【評価と今後の取り組み】

新入生に対する自校教育の導入、本校の歴史を紹介するギャラリーの設置もあり、「建学の精神」は8割以上のプラス評価を得られた。よって、本校の教育理念である「将来、実社会で活躍できる人材の育成」を意識した教育は浸透してきていると判断する。しかし、そのことを生徒たちに十分伝え切れているかについてはまだ十分とは言い切れない。

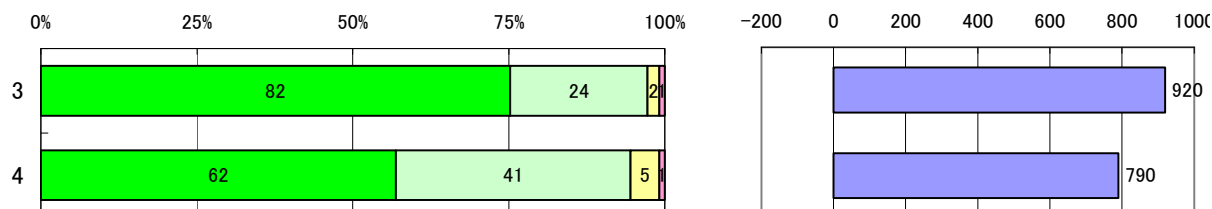
「愛校心」については9割以上がプラス評価を示している。学校行事や部活動への活発な取り組み、さらにクエストカップ（企業探究学習全国大会）等での活躍が「愛校心」を着実に育成している。近年の本校の教育活動が世間にも広く認知、評価されつつあり、「入学したい学校」としての人気の高まっていることも大きく影響している。

今後も教育理念を常に意識した教育を発展させ、外部からの評価を上げて生徒や保護者の満足度をさらに高めたい。

教育課程

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
学習指導要領の対応状況	3	教育課程は学習指導要領に沿って編成されている。	82	24	2	1	75	22	2	1	920
教育計画について	4	年間を通じた教育計画を立て、各教科のシラバスにも反映されている。	62	41	5	1	57	38	5	1	790



【評価と今後の取り組み】

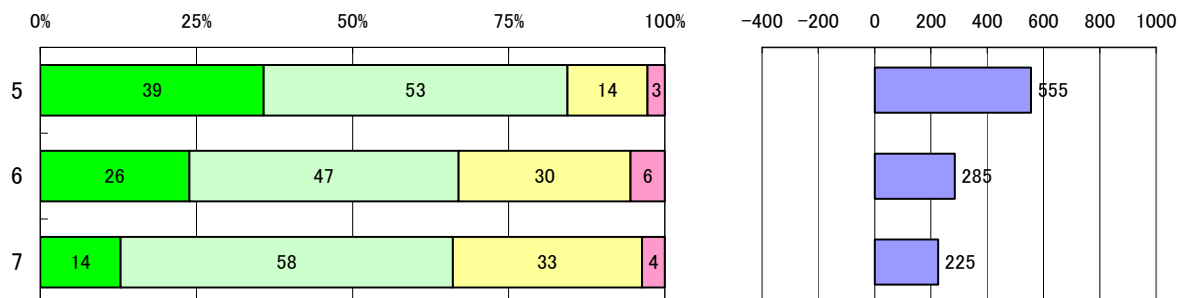
教育課程、教育計画についての理解は教員間に浸透し、今回の調査の中でも最も高評価の項目であった。学習指導要領に準拠した教育を基盤とし、各コースの到達目標の設定や検討、各コースの目標に沿ったシラバスの作成と更新、アンケートによる授業の見直し等の具体的な方策が高評価に繋がっていると思われる。

今後も現在の授業計画に満足することなく、常に生徒の進路目標や実態を把握してさらに改善を重ね、計画実現に向けてのより具体的な指導方法の確立を目指したい。

教職員連携

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
教員・教科間連携状況	5	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	39	53	14	3	36	49	13	3	555
教員と事務職員の連携状況	6	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携がとれている。	26	47	30	6	24	43	28	6	285
会議の有効性	7	各種会議は有効で効率的な議論がされ、職員会議で的確な報告がなされている。	14	58	33	4	13	53	30	4	225



【評価と今後の取り組み】

各コースでの定期的な成績分析や学習状況、出欠状況の確認等が細やかに実施され、教員間教科間の情報共有と連携は進んでいる。一方、教員と事務職員の相互理解や信頼関係の評価は昨年と変化はなかった。会議の有効性についても昨年からの上昇はあまり見られなかった。検討すべき内容が多岐に渡り増加している中で、打合せや各種委員会、職員会議は放課後開催とならざる

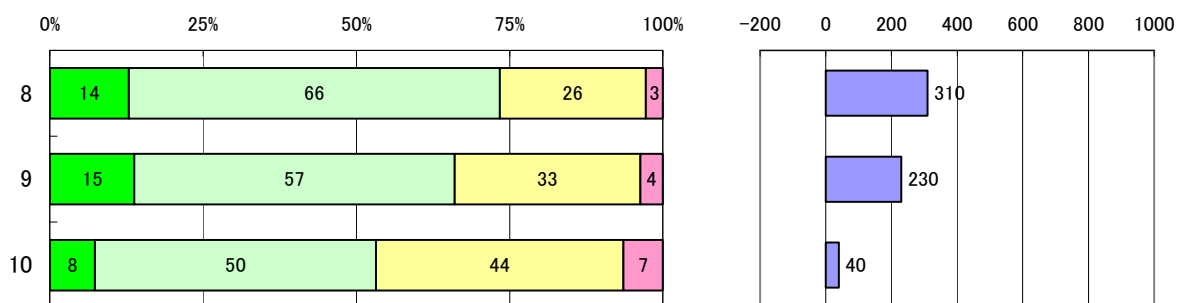
を得ず、長時間に及ぶ会議も存在し、教員の負担も大きい。また、会議が連絡調整で終始し、発展的な内容を検討する場に至っていない面も一部見られ、報告伝達事項の周知徹底にはまだ改善の必要がある。

今後の課題として、教員と事務職員の情報共有と連携を強化し、会議では効果的な運営と伝達を意識して取り組みたい。

財務関係

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
財務に関する意識	8	学園の経営指標と財務概況について理解している。	14	66	26	3	13	61	24	3	310
財務概況の把握について	9	学園の予算、決算の収支の概況について理解している。	15	57	33	4	14	52	30	4	230
評議員・理事会機能について	10	評議員会、理事会の役割や機能について理解している。	8	50	44	7	7	46	40	6	40



【評価と今後の取り組み】

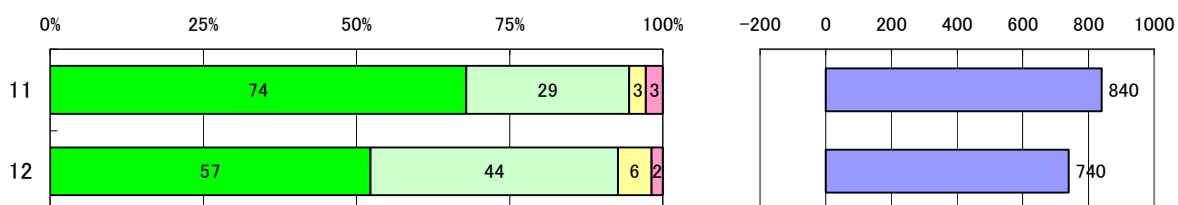
財務関係の理解は職員会議における報告会の開催により徐々に改善されている。しかし、職域や年代で差があるものの総じて関心が低い。教員は会計上の扱いや専門用語等の知識が乏しく、また自分達の問題として捉える意識も不足している。特に、評議員・理事会機能については、今年度初めてプラスに転じたものの、未だ低い評価であった。

報告内容を理解し易い表現への改善を進め、今後も財務関連の研修や報告会を定期的で開催するなど、地道な活動を続けて私学教員としての自覚と経営感覚を養っていききたい。

情報公開

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
ホームページの活用状況	11	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	74	29	3	3	68	27	3	3	840
授業公開状況	12	保護者などへ授業を公開する機会があり、積極的に広報されている。	57	44	6	2	52	40	6	2	740



【評価と今後の取り組み】

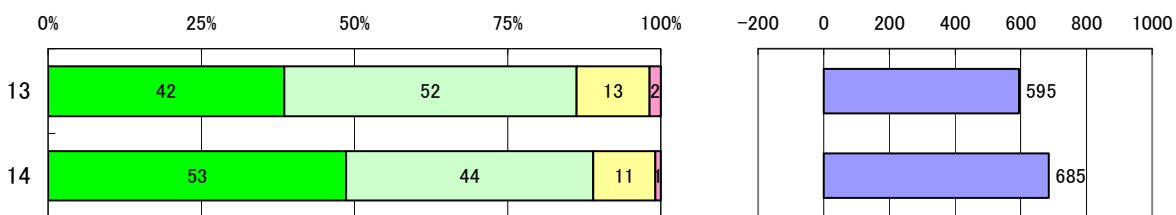
ホームページの活用状況は9割以上のプラス評価が得られた。最も身近な情報収集手段として定着し、その必要性を全員が認識して行事や部活動報告の更新サイクルも順調であった。それに加え、保護者向け携帯電話連絡網サービスでの配信回数の増加や公開授業の定着、成果発表行事への保護者参加率の増加など、学校生活に関する情報公開については昨年以上の評価が得られた。しかし、ホームページの更新状況や携帯電話連絡網サービスの配信回数には担当部署やコース、学年でまだ差が見られる。ホームページにおいても、更新が遅れている部分も残されている。

今後はホームページの刷新も含め内容の改善を図るとともに、すべての保護者が等しく満足できるような配慮も必要と考える。公開授業については次年度も継続して実施していきたい。

危機管理

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
役割分担について	13	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	42	52	13	2	39	48	12	2	595
危機管理対応状況	14	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	53	44	11	1	49	40	10	1	685



【評価と今後の取り組み】

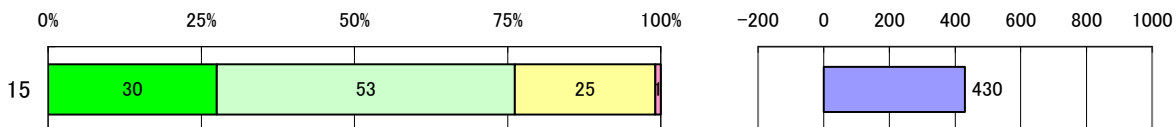
東日本大震災後の全国的な動きに連動し、本校でも防火・防災への意識が高まっている。校舎内の安全点検、AED講習会などが定期的実施され、今年度の防災訓練では平常授業時の地震発生を想定して高層校舎からの避難訓練を実施した。さらに中学校では防災教育を導入、全生徒用の防災用品の設置も進行中など一連の取り組みが評価されている。役割分担やマニュアルの整備、災害時行動ハンドブックや防災カードの作成なども評価に表れている。

今後は教員個々の危機管理意識の差を埋めて全体の防火・防災体制をさらに向上させたい。また、災害や現場の状況に応じて対処できる柔軟な判断力を育成していきたい。

開かれた学校づくり

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
地域交流について	15	地域や地域住民との交流ができています。	30	53	25	1	28	49	23	1	430



【評価と今後の取り組み】

地域交流についてはこの1年間で最も評価の上昇した項目である。一昨年まではマイナス評価であったが昨年プラスに転じ今年度はさらに上昇した。生徒たちの清掃活動や地域活動への協力、旭区との連携による高校2年スーパーコース・特進コースでの総合的な学習「Osaka City Project」や中学校総合サイエンスでの「地域研究」など地域交流の良い流れを作っている。また、ラグビー部の全国大会での活躍は地域の活性化に貢献したと自負している。

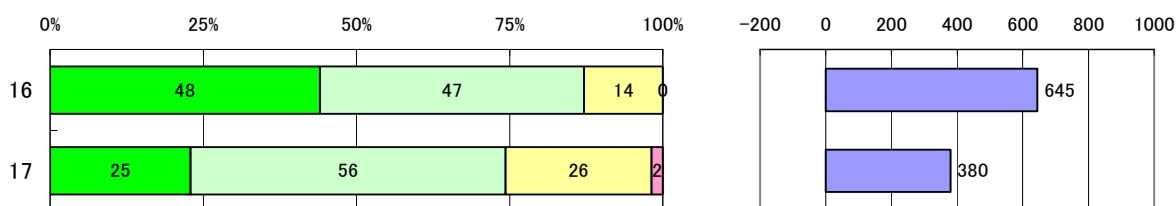
今後も活動の輪を広げながら、地域の一員であることを常に意識した教育活動を展開し、地元可愛され親しまれる学校を目指していきたい。

2. 教育内容

情報教育

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
情報能力育成	16	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	48	47	14	0	44	43	13	0	645
情報モラル指導	17	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。	25	56	26	2	23	51	24	2	380



【評価と今後の取り組み】

充実した情報演習室や情報機器を活用した本校のキャリア教育での効果が現れ、生徒の情報収集能力、分析能力、プレゼンテーション能力が着実に高まっている。

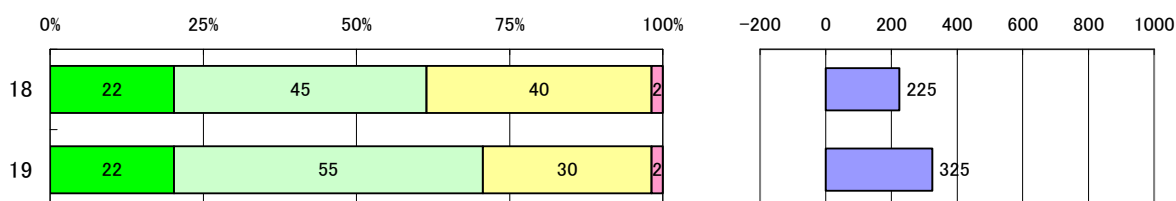
情報モラルに関して、ネット上の問題事象は起こっていない。しかし、携帯電話の所持がほぼ全員の現状に加え、実態把握が難しい分野でもあるため指導効果の検証は難しい。

今後も、情報機器を活用した授業や指導方法の研究を推進し、モラルに関しては学級活動、生徒集会などを通じて地道な啓蒙活動を継続していきたい。

人権教育

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
研究体制	18	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	22	45	40	2	20	41	37	2	225
教育体制	19	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	22	55	30	2	20	50	28	2	325



【評価と今後の取り組み】

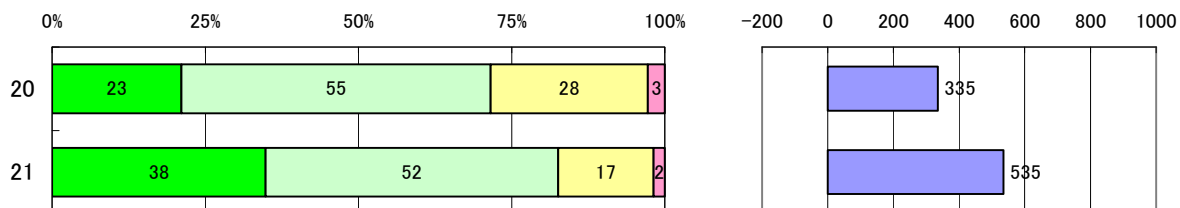
人権教育に関する研究体制、教育体制は昨年より向上は見られるものの、まだ十分な評価は得られていない。近年の生活環境や生徒気質の急速な変化を意識して、初期指導や個々の生徒に関する観察や記録による指導を強化している。また、保健室や生徒指導部、関連する委員会も中心となり積極的な活動を進めている。しかし、一連の取り組みの割には評価が低い。人権教育に対する知識は備えているものの、多様な生徒の増加の中で起こる事象は年々多様になり、その対応への不安感が評価に表れているものと思われる。また、教科指導に関する研究が優先される傾向にあり、人権教育が形式的なものに流れる傾向もまだ見られる。

今後も教育活動のベースとなる人権教育の重要性を再認識するとともに、時代の変化や生徒の実態に応じた人権教育のあり方を改善していきたい。

環境教育

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
環境問題意識向上	20	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	23	55	28	3	21	50	26	3	335
実践的態度の育成	21	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	38	52	17	2	35	48	16	2	535



【評価と今後の取り組み】

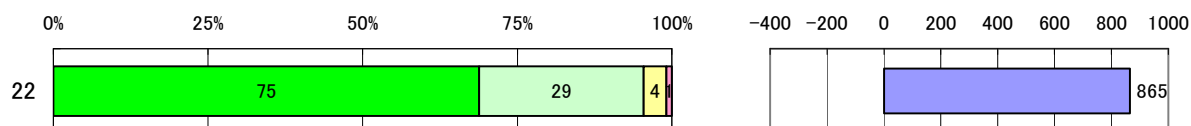
環境教育に関する項目は昨年より評価が下がった。新校舎完成直後の2年間は清掃や校内美化に対する意識が高まっていたが、生徒の入れ替わりと校舎環境への慣れが美化意識の停滞につながっていると思われる。また、教員間の指導にばらつきが見られ、担任の観察力や指導力に依存している部分も大きい。節電やゴミの分別、リサイクル運動はキャリア学習のテーマとして積極的に取り組む生徒も出現してきているが、全体としては東日本大震災からの時間経過と共にその意識が薄れつつあり、一過性で終わらせない継続した強い指導が必要である。

各教員が教育環境の変化を敏感に意識し、統一した基準で指導できる体制を強化していきたい。

キャリア教育

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
キャリア教育の推進	22	教育目標に沿って組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。	75	29	4	1	69	27	4	1	865



【評価と今後の取り組み】

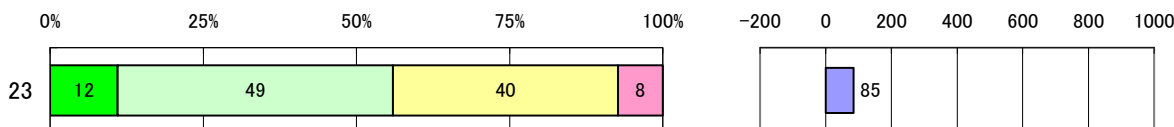
本校独自のキャリア教育「Josho Career-Up Challenge」が定着し、評価は高い。各コースの指導目標に沿った講演会や成果発表会がさらに充実してきており、本校の教育理念である「職業観」の育成にも貢献している。高校1年生の「企業探究学習」では昨年に続き全国大会に2チームが出場し、初のグランプリ（全国1位）を獲得した。また、関西大会を本校で開催するなど、この分野においては大阪府下でも先進的な活動校として認知され、大阪府の「がんばった学校支援事業」としても認定された。中学校では総合サイエンスの取り組みも順調に進んでいる。

今後も更なる教育内容の充実を図りながら、個々の生徒に応じた「目的を持った進学」の実現に邁進していきたい。

健康・食育

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
健康・食に関する指導について	23	健康教育、食育などにも配慮している。	12	49	40	8	11	45	37	7	85



【評価と今後の取り組み】

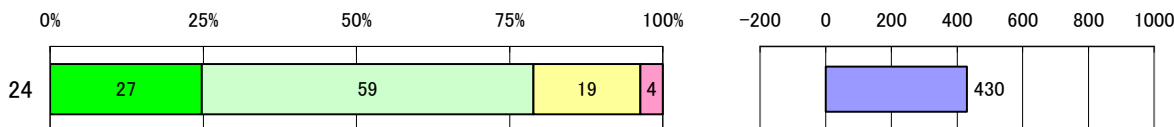
健康、食育に関してはまだ評価が低く、昨年からの評価も下がった。啓蒙活動は保健室が中心となりポスター掲示や保健室便りも充実してきている。しかし、指導は保健室や保健体育科、家庭科まかせになっており、各教員がその重要性を認識して指導する体制になっていない。また、レストラン関係者との連携も不足している。

この分野については各家庭での協力が必要な部分も多く、今後は保護者向けの教育活動に力を注ぎ、レストラン関係者との連携も強化していきたい。

生徒会活動

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
生徒会活動支援状況	24	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	27	59	19	4	25	54	17	4	430



【評価と今後の取り組み】

体育祭、文化祭などの学校行事に加え東北復興支援活動など生徒会の活性化は徐々に進んでいる。しかし、学校全体では生徒会活動に積極的に参加する気運がまだまだ少なく、その指導は一部教員の指導に頼る現状も見られるため、まだ十分な評価は得られていない。特に、開設2年目

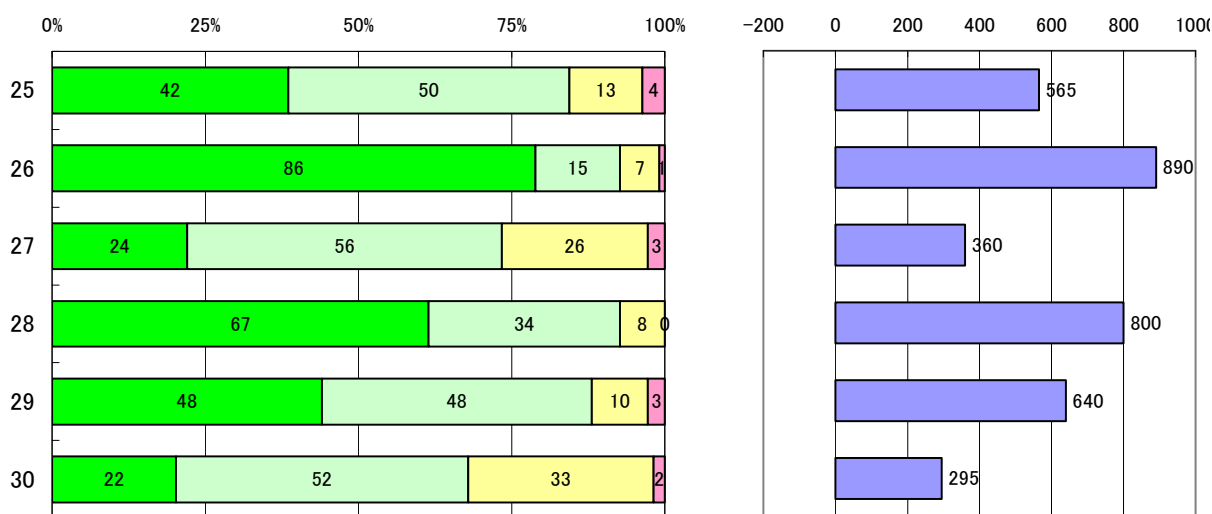
の中学校では生徒会活動は皆無に等しい現状である。

今後は、中学校の生徒会を早期に構築し、中高一体となった生徒会活動を意識した指導に変化すべきと考える。生徒自身が主体的に活動する機会を増やし、ホームページ等も利用して生徒会の活動状況を広く発信すると同時に、学外への活動にも目を向けて学校全体の活性化を図っていききたい。

その他

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
読書推進	25	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	42	50	13	4	39	46	12	4	565
部活動	26	部活動は活発だ。	86	15	7	1	79	14	6	1	890
ボランティア	27	地域や学園と連携し、ボランティア活動を活発に行なっている。	24	56	26	3	22	51	24	3	360
学校行事	28	体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。	67	34	8	0	61	31	7	0	800
スポーツ・芸術文化	29	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	48	48	10	3	44	44	9	3	640
国際理解	30	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	22	52	33	2	20	48	30	2	295



【評価と今後の取り組み】

部活動の評価は非常に高い。これは伝統ある部活動に対する誇り、部員たちの学校行事や清掃活動等への積極的な協力姿勢、指導者の献身的な取り組みによるところが大きいと思われる。また、今年度の各種大会での活躍が対外的な評価も高めている。

学校行事等に関しては球技大会、体育祭、マラソン大会などのスポーツ活動、文化祭、芸能鑑賞、各種の授業成果発表会や講演などの文化活動が活発なものと高く評価されている。

この数年間で一番評価が向上してきたボランティア活動であるが、今年度は評価の上昇は見られなかった。

読書指導についてはポスターや新聞制作、推薦図書を紹介などの生徒活動が定着し評価されてきている。特に、中学生の図書館利用は増加している。

国際理解に関して今年度はロシア大使館学校生徒との交流、中学校でのネイティブによる英会話講座の導入、海外修学旅行や語学研修拡充の検討などが良い影響を与えている。これらの一連

の文化的活動が継続して実施、検討されてゆくこと必要である。

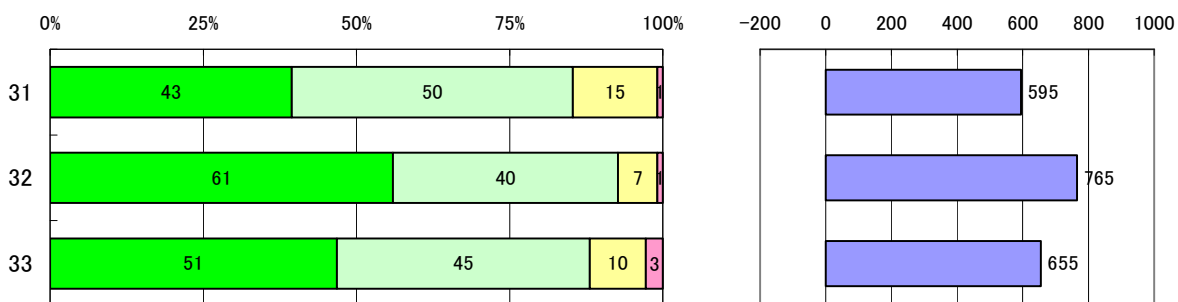
今後は、留学制度も視野に入れて検討を進め、国際理解教育をさらに推進していきたい。読書推進に関しては啓蒙活動を継続するとともに入学直後の初期指導の強化に努めたい。ボランティア活動に関しては全学園的な取り組みと認識し、中高大が連携した活動に発展させていきたい。

3. 生徒指導・支援

生徒指導

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
指導方針の一貫性	31	学校の方針に従い、一貫した生徒指導を行っている。	43	50	15	1	39	46	14	1	595
生活指導について	32	生徒の生活指導に組織的に取り組んでいる。	61	40	7	1	56	37	6	1	765
家庭との連携状況	33	家庭と連携した生徒指導が行なわれている。	51	45	10	3	47	41	9	3	655



【評価と今後の取り組み】

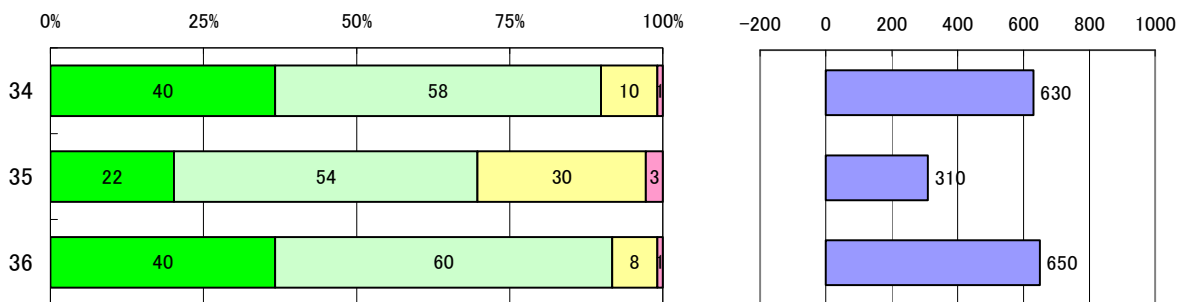
生徒指導に関しては総じて評価が高い。大規模校でありながらも生徒指導部を中心に、長期にわたり指導の歴史を積み重ねてきたことが現在の高評価に繋がっている。生徒指導面に関しては保護者への連絡体制も整備され、良い方向に向かっている。しかし、一方で大阪府の授業料無償化施策に伴う影響も現れ、従来とは異なった入学意識を持つ生徒も増加して初期指導の重要性が増している。また、中学生の指導など新たな課題も多く発生すると予想され、教職員が共通理解のもと、一丸となって取り組む姿勢が必要である。

今後も社会環境、家庭環境の変化を迅速に察知し、個々の生徒に応じた木目細やかな対応をさらに心がけていきたい。また、生徒や保護者間の不満を生じさせないためにも、個々の教員の判断ではなく統一した基準での指導に力を注いでいきたい。

生徒支援

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
学習指導について	34	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	40	58	10	1	37	53	9	1	630
カウンセリング体制	35	カウンセリングについて教員全体が研鑽を積み、十分な知識を持って支援にあたっている。	22	54	30	3	20	50	28	3	310
進路指導について	36	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	40	60	8	1	37	55	7	1	650



【評価と今後の取り組み】

コースの進学目標の設定とそれに応じた指導体制が整ってきた。「Josho Career-Up Challenge」に代表されるキャリア教育の定着や学内進学制度の見直しなど、生徒の実態に合った学習や進路指導は評価されている。多彩な入試形態を指導する教員の負担も増加しているが、着実に成果は上がっていると判断する。

カウンセリング体制は学校カウンセラーが2名となり利用環境が整ったため、3年前からは格段に評価が上がっているが、まだ十分とはいえない。教員も研鑽に励んではいるが、生徒気質の急速な変化や女子生徒や中学生の増加などに加え、特別な配慮を必要とする生徒も増加傾向にあり、すぐに効果の表れる分野でないことに不安と戸惑いを感じている。

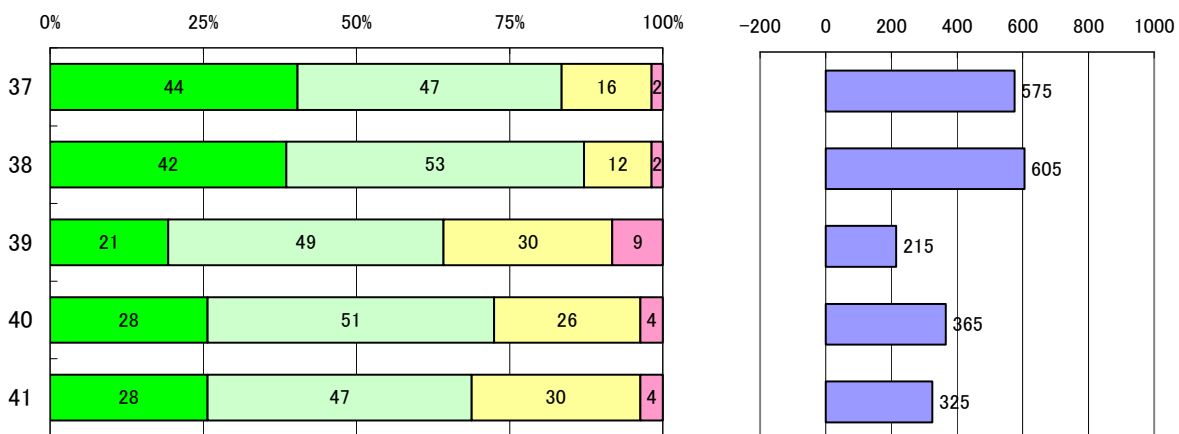
今後も個々の教員が資質を高めると共に、木目細やかな対応とサポート体制の充実に取り組んでいきたい。

4. 教員研修・資質向上

教員研修

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重
			1	2	3	4	1	2	3	4	
教員の資質向上について	37	教員が授業力向上に励み、教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	44	47	16	2	40	43	15	2	575
校内研修	38	効果的な校内研修計画を立案し教職員に実施している。	42	53	12	2	39	49	11	2	605
初任者のサポート状況	39	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	21	49	30	9	19	45	28	8	215
校外研修	40	校外研修を受ける体制が整っており、教員が計画的、効果的に研修している。	28	51	26	4	26	47	24	4	365
研修成果の共有状況	41	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	28	47	30	4	26	43	28	4	325



【評価と今後の取り組み】

授業アンケートの実施、保護者・生徒アンケート結果の回覧や報告会、授業公開期間の設定、定期的な校内研修会や成績分析報告、予備校の教員対象研修会への参加などの施策により教員の資質向上や校内研修会の評価は高い。

教科指導、進路指導、キャリア教育を中心に校外研修への積極的な参加も増え、学内ネットワークを利用した研修内容共有の意識も高まり、結果として全体の資質向上に繋がっている。まだ十分な評価とはいえないが、昨年より評価が大きく上昇した。

一方、初任者のサポート状況は評価が低迷している。近年、学校改革の進行と平行して新任教員が増加し、本校勤務年数10年未満の教員が約半数となった。特に、若年層はサポート体制に関して不安を抱いている。

今後の取り組みとして研修制度の整備と研修成果を共有できる体制作りを推進しようと考えている。また、初任者への教科や学年集団でのサポート体制を強化していきたい。

VI. 総合評価

教育目標の「職業観の育成」に関する取り組みは、「企業探究学習」を基点とした系統的なキャリア教育「Josho Career-Up Challenge」が順調に発展し、本校の教育活動の特色として全体に浸透してきた。「自主・自律の精神」については、まだまだ十分な教育効果を得るにはいたっていないが、生徒の成果発表行事への意欲的な取り組み、ボランティア活動などに対する自発的な協力も増加しており、今後の可能性を感じられる。しかし、「全生徒に十分伝え切れているか」についてはまだ不安な点も多く、今後も検討を続ける必要がある。

重点目標である“「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底”に関して、「あいさつ」や「掃除」の習慣はかなり定着しており、外来者からの評価も得ている。「身だしなみ」に関して年々改善されてはきているが、まだ教員の力量による指導力の差も見られる。この重点目標が学校改革の基本となることを各教員が理解し、今後も統一した指導の実践を進めていきたい。

“目的を持った進路選択と進学実績の向上”に関しては、スーパーコース、特進コース、薬学医療系進学コースを中心に難関大学への合格実績は着実に伸びている。しかし、難関国公立大学への合格数はまだ十分とはいえない。一方、文理進学コースでは内部進学制度や指定校推薦入試など学科試験を課さない入試を希望する生徒が増加してきている。これらの入試に関しては、全国的な流れとして減少傾向にあり、大学教育を受けるに必要な学力の定着と確認はもちろんのこと、確かな目的意識と学習成績以外の付加価値の育成が必要である。また、合格後にモチベーションを低下させない方策も必要である。

いずれにしても、早期からの進路指導に加え、教員個人の指導力のみには頼らない統一的な指導システムの構築、難関大学への進学指導の出来る教員のさらなる養成が必要と思われる。

学校評価の各項目については、昨年度は1項目「評議員・理事会機能について」が加重評価マイナスであったが、今年度は全項目がプラスとなった。全体では41項目中34項目に評価ポイントの上昇があり、そのうち18項目については100ポイント以上の上昇が見られた。

総じて、5年間の取り組みを通じ評価が向上している項目が多く、全体の改善は着実に進んでいると判断する。

2012年度 常翔学園高等学校自己評価

教育の目標	本校の教育理念を浸透させ、「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養う。
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ・掃除・身だしなみ」の徹底 ・目的を持った進路選択と進学実績の向上

下記のそれぞれの評価項目について、1～4の評価のうちいずれか1つを教えてください。
回答は別紙マークシートカードに記入してください。マークカードには名前を記入してください。

調査1（基礎調査）

職 域	1. 専任教諭	2. 特任教諭	3. 事務職員	マークカード D欄の1・2 列目に記入してください。
本学園の勤務年数	1. 10年未満	2. 20年未満	3. 20年以上	

調査2（自己評価）

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない					
分類	評価の観点	評価項目	No	設問	評価 1つを選択する
学校運営	私学の 独自性	建学の精神について	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	1 2 3 4
		愛校心について	2	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	1 2 3 4
	教育課程	学習指導要領の対応状況	3	教育課程は学習指導要領に沿って編成されている。	1 2 3 4
		教育計画について	4	年間を通じた教育計画を立て、各教科のシラバスにも反映されている。	1 2 3 4
	教職員 連携	教員・教科間連携状況	5	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	1 2 3 4
		教員と事務職員の連携状況	6	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携がとれている。	1 2 3 4
		会議の有効性	7	各種会議は有効で効率的な議論がされ、職員会議で的確な報告がなされている。	1 2 3 4
	財務関係	財務に関する意識	8	学園の経営指標と財務概況について理解している。	1 2 3 4
		財務概況の把握について	9	学園の予算、決算の収支の概況について理解している。	1 2 3 4
		評議員・理事会機能について	10	評議員会、理事会の役割や機能について理解している。	1 2 3 4
	情報公開	ホームページの活用状況	11	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	1 2 3 4
		授業公開状況	12	保護者などへ授業を公開する機会があり、積極的に広報されている。	1 2 3 4
	危機管理	役割分担について	13	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	1 2 3 4
		危機管理対応状況	14	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	1 2 3 4
	開かれた 学校づくり	地域交流について	15	地域や地域住民との交流ができています。	1 2 3 4

教育内容	情報教育	情報能力育成	16	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	1	2	3	4
		情報モラル指導	17	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。	1	2	3	4
	人権教育	研究体制	18	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	1	2	3	4
		教育体制	19	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	1	2	3	4
	環境教育	環境問題意識向上	20	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	1	2	3	4
		実践的態度の育成	21	生徒に清掃、校内美化を取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	1	2	3	4
	キャリア教育	キャリア教育の推進	22	教育目標に沿って組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。	1	2	3	4
	健康・食育	健康・食に関する指導について	23	健康教育、食育などにも配慮している。	1	2	3	4
	生徒会活動	生徒会活動支援状況	24	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。	1	2	3	4
	その他	読書推進	25	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	1	2	3	4
		部活動	26	部活動は活発だ。	1	2	3	4
		ボランティア	27	地域や学園と連携し、ボランティア活動を活発に行なっている。	1	2	3	4
		学校行事	28	体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。	1	2	3	4
		スポーツ・芸術文化	29	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	1	2	3	4
		国際理解	30	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	1	2	3	4
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	31	学校の方針に従い、一貫した生徒指導を行なっている。	1	2	3	4
		生活指導について	32	生徒の生活指導に組織的に取り組んでいる。	1	2	3	4
		家庭との連携状況	33	家庭と連携した生徒指導が行なわれている。	1	2	3	4
	生徒支援	学習指導について	34	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	1	2	3	4
		カウンセリング体制	35	カウンセリングについて教員全体が研鑽を積み、十分な知識を持って支援にあたっている。	1	2	3	4
		進路指導について	36	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	1	2	3	4
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上について	37	教員が授業力向上に励み、教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	1	2	3	4
		校内研修	38	効果的な校内研修計画を立案し教職員に実施している。	1	2	3	4
		初任者のサポート状況	39	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	1	2	3	4
		校外研修	40	校外研修を受ける体制が整っており、教員が計画的、効果的に研修している。	1	2	3	4
		研修成果の共有状況	41	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。マークカードのみご提出ください。

提出期限： 1月31日（木）

提出先：事務室